

# 武江年表

乙

扶

別記

共八

武藏

和書門		二	九	三	三
類	號	函	架	冊	九

內閣文庫		和	書
二	九	三	三
四	一	九	三
函	冊	架	冊

內閣文庫		番號	和	21933
冊數		9 ( 5 )		
函號		141	88	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

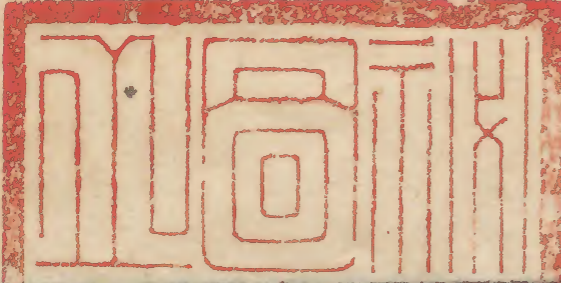


© Kodak, 2007 TM: Kodak





編脩  
用脩



武江年表 卷之五

延享元年甲子

二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内より下野岩船地蔵開帳○八日より市谷

八幡宮地主茶本稻荷社開帳○二月六日夜子上刺天中央より少一西の方一

如法星現る嘉瑞とす○二月より護國寺より武井河嶽山藏王

権現開帳○八月より法華寺内松尾明神開帳○二月十五日より三日の

若中村の二所芝居奥の初年より百二十一年の壽狂言奥行○矢口

新田村の御と立南郭文と撰次○四月三日儒師山本吹丈平 名信一柳島

○新田村山王宮管建○四月朔日法華光感寺尚麻髪毛曼茶經を

撰せむ○四月より護國寺より上品碓氷郡松井田金剛寺十一面觀世音

武江年表 卷之五



碓氷定光 閑帳 ○ 八月十三日より日向院にて 伊勢白子子安親世音閑帳 ○

夏より冬まで法國風邪流行 ○ 六月十五日 神道 岡田盤母卒 名正利林丸を 学者 七十八歳没

○ 七月朔日より日向院にて後念言徳院大佛腹籠鉢陀閑帳 ○ 七月

元八幡宮内氷室明林閑帳 ○ 七月朔日より芝神明宮内にて若根光明寺

十一面觀世音 儀後太 閑帳 ○ 七月九日書家山本惟命卒 林忠方没 三回竜系若小蘇

○ 七月晦日餘人中川宗瑞卒 暢隨院 小蘇氏 ○ 七月海中魚多死生實此魚

も同トく死せり ○ 八月八日目黒不動尊内にて大磯切通 梅林寺身代

地蔵尊閑帳 ○ 九月廿一日山谷所本性寺自雲靈神忌日 杉州川辺郡 小濱の産若

多傷とり入江ふ下り新川の商家岡田某ふまよ一けつが正連ある右其家を焼くめて 孫右清と改む法苑を信トて常以焼焼唱歌以三十八所せうまふるりま一く死後

病を患つる人と故人と推して 終りて秋山自雲冥神と祭る ○ 九月廿七日金雕之土屋安親卒 七十六歳通林鉢入八

○ 釜師淨林卒 月日 不詳

延享二年乙丑 十二月間

二月初日より茅場町茶師焼肉にて信及蓮池院源坊本地務軍ふ勤号閑帳

○ 二月六日龜戸天満宮近隣の在家より火出く元祖信祐が建立せし社以下一宇

も焼くべ焼亡せり ○ 二月より渋谷長谷寺大徳親世音漸首仏閑帳 ○ 月十一日

より日向院にて上洲根山正法寺親世音閑帳 ○ 二月十二日於五時五十分谷より

出火青山跡ら後園麻布三軒家本村氷川社若福寺門前廣尾白金村二回保

四子白金瑞聖寺後町車町寺輪南小泉川追焼亡 武家町巻野 翌十三日

鎮守寺焼如來寺小立る但唱化火六の仁王若此石像并地蔵尊の石像も

焼きて方方 白金細川後山布一の辺伊四子の 四ノ百三十年目よの焼焼と云ふ ○ 四月朔日より後草實お寺

あて常陸小金井妙徳寺日蓮上人閑帳 ○ 月日より日向院にて根洲茶碓山藤一

寺圓光大師引接鉢陀如來閑帳 ○ 月日より牛込山福寺にて相洲妙徳寺星



降梅日蓮上人像開帳 ○同日より新義前八幡宮内之信州為界山建徳寺不  
 動尊開帳 ○同日より本新寺の目大佛不動尊を南於東大寺二月堂觀  
 世音鉢陀如來開帳 ○四月より護國寺蟹清水出現茶師自坊之開帳 ○  
 四月十八日書家関口黄山卒 名忠貞 小日向金剛寺小蘇 ○七月朔日より伊勢桐熊岳金剛  
 寺虚空藏并回向院之開帳 ○八月六日より茅場町茶師内之相助令  
 目山坂東七番目聖觀音開帳 ○八月十九日大風雨芝河辺竜巻あり ○九月十  
 四日大風家産を抜る 後栗福井町根杏八幡の 浪杏古掛次あり ○十月十日儒師長次東海卒 名五字元下 深川徳昌

延享二年丙寅

二月朔日より隅田川本母と梅若丸方本為文殊菩薩開帳 ○同日より雅司谷  
 本納寺より本州系教寺休息日蓮上人開帳 ○二月廿九日夜に時芳築地本於寺  
 取武家方より火下とこの志武家方一系南八町堀本八町堀茅場町小堀町大

坂町堀町葺草町芝居為座村松町堀町北辺武家方より恰町濱町日羽町米沢  
 町中野小泉町横堀町松井町相生町龜沼町辺武家方清巻より小堀米中七延焼  
 聖朔日夕七ツ時終る 清巻より東側の 坊舎の未割焼 ○二月晦日昼本新美山寺横堀より出火大  
 風此辺の寺院多く焼亡 ○三月より清巻寺内松壽院火六毎火天暖巻條開帳  
 ○書家赤井得水卒 林文次并 伊勢町住 ○四月朔日より略上寺常照院 伊勢 芝浦出現  
 鉢陀如來開帳 ○四月より湯島又林内にて常則麻呂護摩堂本尊五丈の  
 五開帳 ○下落合米主院釈迦如來開帳 ○四月鳥丸光榮公園東江下向河  
 道の祀ありうららの溪の祀と以入 一巻 ○清巻池の妙音寺にて駿河蓮永寺  
 日蓮上人鏡於開帳 ○目黒不動尊境内にて下徳萬佛那正覺より不動尊開帳  
 ○半田系町極王寺あり 京上より相実相寺兩新日蓮上人像開帳 ○六月十  
 八日より六月十八日迄 日延 三十日 清巻寺觀世音開帳 ○月廿六日より新義前大護院



八幡宮中地愛深明王開帳あいでんみやう○六月十日儒師藤江邦良卒藤江邦良○七月朔日あさごころ○七月十日儒師藤江邦良卒藤江邦良○七月

○七月十日秋澤章弼池田利美紀伊必孫越三入淡路川に網を打て一寸

七分の不勤者の像を乃より大同二年宣海と彫る谷中妙林寺に安置す○九月

芝神明宮并至西東寺並天満宮並草堂像を移せしむ○九月朔日より谷中

大系寺より大系天開帳○十一月久野田社別当成徳院本堂方丈撞櫓の外

とも焼亡○事功合考字本成物語采心○江戸めづり二冊挿紙本堂

○江戸名勝志挿紙本堂 三巻安橋子

延享四年丁卯

二月朔日より淡路山内梅園院子育仁王尊開帳○同日より淡路新堀東山

茶師如來開帳○二月九日外堀田火事松慶の藩邸敷地九十号と云○淡路

八新寺町本法寺老安房茶小松系鏡恩寺日蓮上人像開帳○牛込七新寺

町久成寺より強河岩本日蓮上人像開帳○二月朔日より谷中一宮寺子安鬼

子母神開帳○山谷法養寺より甲加敷淨經寺日蓮上人開帳○三月悪

黨濱島店去湯并當刑せらるる也○四月朔日大霜降つ

る○月日より深川永代寺より大坂所城徳生玉明神開帳○月日より谷中

妙法寺より中山日蓮上人像開帳○月日より廿日追押上美雲寺普賢菩薩

開帳○三田寺町林泉寺より真如聖賢郡牛島村住生の圓光大師開帳○

牛込神樂坂元吉親世音不動尊開帳○小石川若雄寺より引地蔵尊開帳○

高橋正覺寺跡地如來開帳○後安永 後安永 中元の

後安永 ○六月十七日儒師菅野兼山卒兼山 ○六月廿七日俳人小川破笠卒破笠

八十金大名家有林平助俳諧茶屋を再建す○六月廿七日俳人致曲庵遠志卒遠志



○六月廿日太宰春菴平八十八天祐孫春菴門 ○春川秀蝶宅宿社（祇園谷中） 春川秀蝶宅宿社（祇園谷中） 春川秀蝶宅宿社（祇園谷中）

會細園の額を掲ぐ ○浅草大獲院八幡宮修復助成の爲三年の月晴天八日  
の寄進縁身あり ○七月廿日より回向院より羽州陽殿山注連寺大日如來  
開帳 ○月日より回向院より上徳園小田森大表方注院如來開帳 ○十月上旬より  
諸本風邪流行 ○十月廿日御人菊岡治凉平六十余才名房乃号米山雀下菴林菴  
在横濱林田殿所住江戶松子世孫孫

ゆめゆめ一丸俗諺志中外著述多し  
りきも有益の由之男政遠恒足軒と号し

此年間記事

真先稻荷社延享二四年の以より諸人多く整榮せり ○谷中並榮稻荷社未精形  
○風岡より南山派修驗 陽務天林中坂より聖堂後へ移る

○延享二年の美江戸の流行物と集めりる句集あり時時風と歌を時々門人及  
故歌果然とりり人の編再考合 尺内と撰目次のそとたふあり

浮繪 遠来の山水也 △雜司谷今式所物 △門百夜未 △門風車 △志道形精叙 △中聖  
桃園 △馬が長吹矢 △下子屋表左邊の香具 △女南力 △依屋良良去湯 △辻宝引 △  
象股引 △券角力 △大名儉純 △聲道心 △竹村慈暎 △金敷稲荷 △西常  
△雷糖之介相撲 △芝鏡切取 △赤坂奴 △正徳寺紅糸 △薩摩芋 △元文以茶のりの  
珍重せし △回向院子淡雪 △池の嶋樞花 △小間 △赤川筑紫 △伊世丸 △牡丹屋表  
花廿日牛込白とすべし △海老菘結鈴賣 △壺宿下植木市 △浅草園十良父  
松平末福とあり △湯島油揚 △伊四子楚 △慶西次中 △山下敬裕 △下梳子屋と名づけれぬ收童  
未考 △中村屋貨物 △古本糖籠 △新邊坊主 △麒麟の助 △風俗也 △豊後屋  
酒 △芝茶 △廣澤石摺 △豊後節 △大名襦袢口 △神田北  
巻の着 △羽織長紐 △江戸川推木 △担言化若津打治長清 △熊野十二所



△涼垠大忌 新米や二三日のうらやみ山狩野貴信涼垠 △八人藝 今更夜のりて

△市子丸 △扇屋深 丸くは南茶屋地城六角蓋ありは形を皮(皮)中よ △加賀骨扇 △蕃林

地花 ふかぬ法安ふ △懐紙折 通新所 △狂言坊 赤洋 △木葉茶餅 これ外あり

何れども誓ければぞぐ

○婦女のわがさうといふ物始る後一旦廢れり寛政より再成りる○郡内

微塵縞衣類を穿る○江戸路古依名犯和能木の標芝居ありしが

次宵不廢れ大政の花た文花とあり

寛延元年戊辰 十月間 七月十八日改元

三月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂塔頭以下焼亡感應寺 今ゆふ

本堂塔頭門前町を焼亡○三月十八日より魚籃觀世音閣帳○月日より

三田基町泉福寺茶師閣帳○月日より魚籃下大信寺觀世音閣帳

月廿五日官醫曲直泚若端卒 六十三才養安院と号す ○二月廿九日南郭の長子

温心卒 三十分 ○四月初日より日蓮祐天寺鉢陀如來靈室閣帳○月日より

永代寺八幡宮閣帳○二本榎兼敬寺祖師閣帳○浅草日福寺お祈回向院

のち祈に於て奥例今津西光寺日蓮地蔵寺閣帳○六月朝鮮人未聘 正使

副使南茶考後事曹命葉旅箱東本於るなり 供養持

真粒金塔井といふ人後草と瀧玉堂の類を言す ○八月十日書家馬場英水卒 号青

市谷長島 ○閏十月廿一日他人堀内仙鶴卒 七十 ○十二月琉球人來聘 正使長志川

○奥澤村浄心九品 焼失

同二年己巳

正月廿五日長権流孝道祖長権耕雲卒 六十二才林守左衛門 ○三月廿一日儒師桂

山義樹卒 号彩嵐林守左衛門 ○今年外佛啓念經筆りの月日詳あるは閣

帳記よりしてたよるは



○深川海傍舟夫古川某師如東院安長 泉川寺水月親音三ノ輪 其親世者  
秋葉控現四谷生威院鹽踏坪為儀 其某新所泉任院為福舟夫天儀其内  
日音院荒澤不動寺河松壽院火六舟夫天儀其本為池の好音其妙見其  
不忠池舟夫天文殊之地のちを造るに納む試年より芽下道 谷中長運寺祖師鬼子母  
并三回寺町明王院弘法大師月不於海寺不動寺 右儀自坊小居村の園帳之  
○本母寺梅若丸二十方二千日供養 ○二月九日小回向院之終之常陸國河内郡  
大徳村宝積寺子安舟夫天園帳 ○四月朔日より五月晦日迄回向院之之河  
内山中檀林法苑寺出世親世者園帳 ○五月十九日六月二日迄龜戸妙義山  
権現園帳 ○六月六日羅漢寺中興源先和為寂七十 ○六月四日北村湖元卒  
信谷日宗信谷日宗 ○七月朔日より回向院之終之信乃若光寺南門外西荻萱莊子地  
為乃園帳 ○當夏中より雨繁く降る七月も晴るが廿六日小いり大風

為乃の夫より為乃の縁より八朝大風起り時雨降八月十二日の曉より小風大  
嵐となりて半辺小日向あり下谷浅道辺迄溢れ出る田園と辺家と流し人々  
溺る江戸川通り橋押流 小石川通大水神田上水榭樋流昌平橋 氣  
遠橋外 井田川橋流る 為國橋大橋意江 本所深川水意江 九月  
より御時又とある ○八月光物花ふ ○雜司谷鬼子母井境内又孝女く 兒と  
り小の麦葉葉 是作る 南吉橋獅子と賣り踏む ○十月十八日茶人望月  
宗舟卒号の意形 ○新著聞集十八冊刊行中古世の中の時節と ○今年江の  
橋舟夫天奉社之園帳有り江戸より系譜の遊樂あり  
寛延三年庚午  
二月十五日より下谷岩寺地蔵寺園帳 ○高田感通寺毘沙門天園帳  
○三月十八日より晴天十五日迄橋河門外畠地於て 親世者其初進能



身あり○房州が茂村日蓮寺祖師法堂 あて開帳○四月八日より

七月迄芝泉岳の釈迦如来開帳○日暮里本行の小道灌丘碑を立流波山人

石正橋文を撰之○四月廿三日朝曇八時の西小大風向大衆隠る 本所辺九二十

也之家之流を小川町番町八十位翁送外物進徳寺 女四十九位翁

信去寺不動の宗帳○七月より浅草新松院之越後西降寺法院如來

弘智法印像開帳○七月七日儒師中尾廣徳卒 林正翁西隠 ○七月十七日

儒師井戸甘谷卒 拾遺古名方慈 日暮里山邊ふ養

此年回記事

延享四年二月の雨より不忍池影の築地出来て茶店揚弓場溝敷場未建  
法之ね整昌一又寛延二年舟又天の島より西茅町の裏一板橋を折折はし  
て架けおふりて八つと名依て八橋といひ架るは沈の懸多死由老於て

毀ち多らる○は時代より開帳場は神佛よりバ幟と云ふ事始なり

○江戸史抄六十帖字本成 元禄の以乃風信也 ○享保廿年の江戸松子拾遺寛

延四年の再打惣麻子に時世の商物を載れども二書世ふりて友らふ

抄也せん○傀儡師江戸の方言よ正橋といひ一月十七八夜同ト不也也

○宗十郎政中をかり出以○寛延四年江戸圖

ふ天文墨祓田依久同町二丁目三丁目の小あり池の端築出に朽地と記り

白山所殿の茶園と名風園と聖堂もふあり

寶曆元年 辛未 六月間 十月三日改元

二月十八日より護國寺親世音開帳○三月十日佛人石賜子卒 深川六右衛門

○二月十八日より浅草寺親世音開帳 享保四年より二十三年月迄寺内神佛のくうバ

○三月廿一日に月六日中を 長安寺の森也



本下川津光寺茶師如來開帳 ○月廿二日より平井村燈明寺にて成田不動  
 寺開帳 ○四月朔日より浅草報恩寺親密上人達物を和せしむ ○月日より  
 浅草寺町正福院柳福花開帳 ○月日より回向院にて甲五若光寺保院如  
 來院龍佛開帳 ○系於本満寺祖師谷中妙法寺にて開帳 ○其令校  
 園塚寺七面大明神開帳 ○大師河原年間より大師開帳 ○持乳山聖天宮二并  
 帳 ○浅草寺町  老依渡塚系根本寺祖師開帳 ○浅草寺八幡宮  
 開帳 ○月朔日より湯島社地にて後父子燈規開帳 ○月日より以花  
 前八幡宮にて皇加茂郡最勝院親迎如來開帳 ○浅草寺内正福  
 院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮開帳 ○谷中妙法寺不動寺開帳  
 ○不悉森才天より常陸水戸玉里妙法寺不動寺開帳 ○六月三日  
 詩人益田雀樓卒 名伯隣本町正福院丁目五若光寺茶師のありしあり ○八月廿日

荷田在満東於之卒 早ふ才孫東に進法草令統ち不華以男所成 ○九月晦日佛人  
 小沢卜天卒 浅草の抄を著し華次 ○十月十日儒師市野光業卒 字子暉本在歌中  
 ○古来女蘇者といふ所の今年より始る 扇屋の再仙といふ所の始りたり  
 ○再訂江戸惣席子名所大全持行 奥村玉華編 ○南向茶話字本成 酒井成  
 江戸地理沿革の回答あり明和二年の  
 巡考を合し一部あり

宝曆二年壬申

正月四日物産家丹羽正伯卒 丸山寺坊 ○二月二日より三圍稲花明神開帳  
 ○二月廿二日より中の如玄輪寺聖徳太子開帳 ○二月廿六日天満宮八百又  
 十年新忌 ○月日より湯島天満宮 麹町平河天満宮 小石川半天林 粟鴨  
 小糸町天満宮開帳 飛戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで  
 開帳 ○二月廿八日より同系不動寺開帳 ○三月朔日より湯島社地にて伊豆



八丈島為朝明神開帳○四月朔日より飛戸河嶽山権現業平天神南院  
 吾妻森吾妻権現飛戸門院正親者木母寺梅石の宮本吾文殊并飛  
 戸竜眼寺中嶽権現并明宮右佐れも自坊に於て開帳あり○四月朔日より  
 日向院より系知恩寺山光大師利劔名号開帳○同日より半込京町妙山寺  
 みる房及小湊誕生寺祖師開帳○九山降心寺祖師谷中本寺祖師  
 開帳○四月々麻布光雲寺之大師河原清宝院地飛井開帳○四月より  
 目黒寺福院誕生八幡宮開帳○五月深川三十三方堂重修○六月廿二日  
 池の端杉地の茶屋六十九軒に外家殺陣を引拂せり多くの女に之を  
根成りたりゆを  
 ○七月朔日より湯島社地下野那須野泉溪寺の教生石化皮聖觀音開帳  
 ○同日より日向院より武州羽生の不動の長村惣の不動の八丈寺子開帳  
 ○七月十日儒師中西淡備卒 早二才名維章孫男七舟  
塔上り地中階院不華 ○同月十日倭文子卒

弓丁伊勢屋平右衛門の娘より武州羽生の不動の長村惣の不動の八丈寺子開帳  
 入て國學和名小名あり深川有権者不華以 ○七月墨院川子深小大島のあ羽無四尺  
 餘り之の長サ定除を行方せ知る 大和戸  
未秋不出 ○八月二日夜永代橋の北の方小  
 浪あり何とも知る 此  
出 ○七月護持院大破に付江戸町に勅化を奉り  
 ○八月十二日山縣周南卒 年六才孫少助  
手本名保福は以華 ○高井土常光の白令に引く後  
 明和二年に秀寺と改に仍上人痛あり○十二月流球人來聘正使今内仁三子  
 宝曆三年癸酉  
 正月四日の日八日大雪九日十七日十八日の廿二日雪廿三日大雪廿四日  
 二月二日の日六日九日十日十二日十三日の十六日地震十七日の十九日大雪廿日の廿二日  
 廿三日廿八日廿九日の廿日の廿二日大雪の七時より雷雨の大雪降る時晴は其乳  
 候が此の大和戸 ○二月朔日より約迄に未不勅を開帳○同十六日より護國を引く  
 甲州万力村瑞命院信玄の本寺に延陀を來開帳○三月十六日甲州身延山祖師



戸帳より付江戸到着の日近ひの人教品川より日本橋迄行く何町構中と出り  
旗幟ありと云々 困憊様申付 四月朔日より深川降をさるる戸帳

○三月十三日より九月晦日迄薩摩外祀座をせり人形芝居真形本小会

小四郎之○四月朔日より湯島社地にて武洲一の宮殿川畔神田帳○同日

日向院にて武洲熊谷寺深院如來蓮生湯新田帳○四月朔日新田新田若草

大田新田帳○四月十廿日より深川永代にて奥島金花山并文天 大倉 困帳 敬母甲

八幡町新田甲あり 塔蛇と伺む細上人 右兵衛海へ六月二日より十日迄本母よりと困帳あり○四月より

九月より麻之流初人より死に○五月十二日儒師相考竟居年 号親圃又白主

○六月号露岐芝居曾我祭今年より始り○六月廿日能師相月巻法眼不角

卒 九十二才之羽千翁と云集比の成務中集也 ○七月朔日法眼を法をせり相親の

に祖師困帳○同日より護國寺をせり相親中村之遠山社信院深院如來

不執者困帳○同日より 八日 青場町茶師境角にて大坂及至る南石室泉

尾寺聖徳太子 東岸 正親者困帳 美岸島浜町燈台寺也 ○七月朔日より回

向院にて総及大寺法親者寺馬次親母者困帳○月十六日より後芝極るに

奥列衣川地花院子子親世者教書立性生像 六二二 困帳○八月廿一日書家

平林惇信年 六十八才号静安清日居林松入部 ○十月石中嶺寺より小会式極咳

始む 弟延三十五日身上人極るありり年 上人三三回忌高之花塚まゝ

宝曆元年甲戌 二月間

正月廿日秋生叔達年 名親号北溪祖未の家才 ○国二月より元八幡宮本地佛

号氷室明神困帳○月日向院にて奥列會津高巖寺園光大師困帳○

国二月より山花寺八幡宮内にて越後乙宝寺大日如來并帳○国二月より

永代寺にて藤波山本地親世者困帳○護国寺親世者困帳什宝を録せむ



○二月十六日儒師荏子謙卒 名益益子謙 ○四月朔日より南都西大寺秋迦

如末開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 林多膳約也 ○六月三日儒師去庵庵直

卒 号琴基浅草 ○六月廿五日能人櫻井吏登卒 後の雲中者 ○幡隨志院のノノ願

和尚谷中三崎小勇賢山法住寺開創 其地ハ溝ハ深ク 江戸中の男女此形の土

砂を運び目より穴にて成就す世俗新幡隨志院といふ ○七月廿二日儒師

羽川珍重卒 七年余才之此の才と云田吉小孫其地曲亭の燕石雜誌ハ ○八月十五夜西の

刻月蝕 昔既 ○八月十七日儒師石島正崎卒 荒波山人と号ハ ○十月改番領乃玉曆

あつみといふ ○十一月十六日儒師河合子深卒 号静安松三八 ○十一月廿二日能師

自在庵祇徳卒 押上大雲寺小孫也 辭世空さてりて弟一ををぬるあり

宝曆五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺に亙る至別玉沢法花寺祖師開帳 ○二月より護國寺

あて常洲 表笠不動寺開帳 ○三月初日より味日追牛山法社改修後

成就と舟因麻 山根不也 ○三月十三日下谷法書あり此上本門と旅立祖師開

帳 ○同月十五日より十九日寺々回向院とて明曆丁酉正月焼死臨死の輩百年

忌を越法あり ○三月十六日より深川永代寺とて信州戸隠の神九頭龍

権現 顯光 開帳 この内神本と云ふ神子更女の實あり中名をいふと ○同日より浅草

修念寺大字利剣名号 聖十二の様ニテ 朝日如來開帳 ○茅場町某師内より

ねり大山の藤子易親世音開帳 ○四月の以下より下総古河恩業橋の造より

弘法大師の利益あり茶水涌出るといふ俗説を信し貴賤羣衆この水を各

々或身内(権)と九月迄ふ彼地は旅舎千軒を列し又石は文字現を石

より芽せ出ひし流言とて江戸市中の各路を巡るあり翌年より

止む ○四月朔日より回向院とて小金東漸寺圓光大師開帳 ○四月より



青山善光寺跡陀如來開帳○江之島上の宮兵才元開帳江戸より系譜  
多し○八月十五夜圓成時月蝕六分○冬米價貴踊る○十月儒師  
飛智圭洲卒名洞淺草  
飛智圭洲卒

宝曆六年丙子 十一月至

正月十日新找本町より出火為座芝居敷焼○去年冬より米價次第り  
飛揚る○二月初日より牛込久成より之上徳園植生郡妙宣より日親誕生地  
経讀祖師開帳○圓向院あり彼岸中加賀白山神彰釈迦佛舍利開帳唐  
筆泣虎画せ掲る○三月中烈風吹掃き度く火災なり○四月朔日より圓向  
院にて安房國那古より坂本二十  
三番親世音開帳○四月六日より日馬成院新業  
師開帳○四月より東門内にて常陸國茨城郡福田山西念寺宝物を掲せむ  
○四月より下谷本法寺にて下総平賀本寺より白毫光取祖師開帳○市谷

八幡宮境内より徳会坊より圓我覚院弘法大師八幡大菩薩開帳○六月東  
叡山仁王門所再建成○六月画工尾川龜玉卒み十八才白山中下名光るふ  
葵ハ 男を松茂といふ○六月  
廿音休人兩夜蒼飛成卒牛島  
弘福寺小基○七月下谷玉泉寺より佐波谷妙照寺  
祖師開帳○十月谷中修性院の庭今年より開き毎善遊觀の所とる  
發起高田氏庭作是為斗碑せよて左の句成稿と  
不二法くハハハハのありしひくく庭 ○同十月廿日儒師小出三山卒名亮之  
秋我平  
保川公乃庭 ○十一月廿三日曉八代洲河原より出火大風中て法彦藩邸敷字  
焼亡山下町加賀町惣十郎町尾張町辺出雲町金六町辺河内本枕町三  
十番極仙臺法興寺平度河藩邸迄同日於此時と公梁院武家方より出火と  
為本敷寺境内十比五より南小田原町海子迄焼亡○同日昼時青山燈回系  
より出火とて麻布辺二本榎三田の邊まで焼亡○本々新町家此迄圓は  
く朝一のものと唱ふる菜蔬を考ふる小作りより一ツ町を改り後への料理

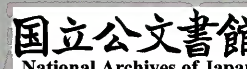






浅草報恩寺之石内八宅所坊大信与宝物并拜せしむ ○浅草若立与父  
 佐渡國新田實相寺朝日祖師并住 ○牛込系町高光寺にて後州沼津  
 妙海寺祖師并住 ○麻布系教寺にて鎌倉松葉谷妙法寺祖師并住  
 ○湯島社地にて比叡山坂本末達寺并住如來園帳 ○廣尾天現寺  
 毘沙門天園帳 ○市谷八幡宮内にて遠州淡松大福寺茶師如來園帳  
 ○赤坂鈴降稲荷園帳 ○芝居下高橋寺茶師鞠町九丁目寅茶師園帳 ○  
 三月十日夜四時時天岩島火火大川端追焼古時焼火 ○六月一日連号師里  
 村昌迪辛辛 ○八月八日觀測海曇る親世多へ住 ○九月廿日廿九日連雷鳴雹降 ○  
 古曆便覽再刊末師ふる茶茶元年の妻永  
公延延小圓月未試未あり ○十月深川靈雲院河園刻園放光  
本堂山  
 門田珠稱若社外悉く成就也惜以空曆十年二月六日の災ふらふ  
此の林系度下遊遊せり  
 宝曆九年己卯 七月国

二月十日より田向院より出羽湯殿山本道寺大日如來園帳 ○二月終不不火  
 災り ○三月十三日より浅草若立与父之系妙満寺祖師并住  
 小立一と ○二月十七日御人若本乾付年海皇新干架見と号并世雲祥や八十年の傳り外  
二向の系上より又号と号作し并人とい  
 以乾付より止世不付了る仍の云も性も記せりおられが声曲歌纂小由赤湯てる花一つこの  
 以乾付の傍正井高氏の族より并人といふは彼家の祖より并高正朝と号し御塔と乾付不學ん  
 て并人といふは乾付の世不修なる  
 本自ら撰て傳へりといふ ○三月十音より本本乾付寺座敷にて越後高田本  
 松寺宝物川越の名号と并せしむ ○二月川崎明長寺石親寺園帳 ○芝  
 合松園珠寺にて千住日共より鬼子母神清心  
不持 并住 ○四月八日より本新孫勒寺  
 茶師如來園帳 ○同日より下谷法養寺にて鎌倉比企谷妙本寺祖師園帳 ○四  
 月十音より廿八日迄龜戸妙義山権現園帳 ○浅草園鹿堂又多田茶師肉又  
 奥州御津虚空花并賓頭盧者者園帳 ○米穀豐饒より ○六月廿日  
 服部南郭辛七十七才名元番孫小右衛門品川東海寺住持小林院  
藥以男惟良惟恭又小光七辛以 ○七月初日より麻布





善福寺親鸞上人了海上人像開帳 ○同日法華玉泉寺之相州聖降天拜組師

開帳 星降妙純也 ○武州大板大聖寺不動尊自坊之開帳者 ○八月令儀礼

新祝儀停止あり ○八月十六日高田穴八幡宮祭礼出し祈り物を出し其後明和に

年返續く ○九月十六日約迎神明宮祭礼産子町より出し祈り物を出し

平賀鳩溪湯屋より物産の命を催し 月十二年 ○九月晦日法忍和尚駒込園宗寺

小寂 サニヲ初雅より流法とあり世々今法法といふ下徳圓羽生於尾崎常樂寺の願をせし身

人得阿弥陀仏と号しを子の碩徳としたり宝曆六年三月六日より四月五日迄 ○秋 白隠禪師深

川院川よりあわいて講祝あり諸君の大衆都鄙の良賤日毎に群集し其徳

を仰ぐ 後師へ東海を承の跡の人 之明和五年十二月十日化寂あり八十に終ると

宝曆十年庚辰

二月二日自志祐天寺二遊祐海上人寂 名愚堂 ○二月廿日夜八時赤坂

今井谷より失火と麻布辺日が産雜色十番綱坂三因寺町何四子聖坂より

田町赤川海より失火 ○同月六日成刻社田旅籠町寺子町明石登とて是袋屋

より失火乾大風佐之間所辺より及次儀草辺より馬喰町本町日本橋江戸

橋辺靈巖島新川辺源川一飛洲崎本町の辺迄焼亡世三万壘焼矣永代橋新大

橋も焼る七日已刻法火 ○同日是社町赤坂存高の向湯屋より失火濱松町門

前金板芝田町辺本芝海濱迄焼亡 ○三月十五日より四月六日まで六所跡院

不跡開帳乃基芥子五十年忌 ○市谷八幡宮甲冑社像開帳 ○王子稲荷

社地より越後高田春日山 鎌信 毘沙門天開帳 ○三月廿日より日向院にて美濃

國福園誕生寺園光大師開帳 ○概町公儀より總列佐倉松林より千手觀

世吉開帳 ○四月より八月迄早天 ○四月廿八日英一峰卒 保川院釋古中 ○五月

二日書家猿溪平震卒 本名元町 ○九月十九日鳴島風姫卒 名信通字海徳孫乃就

三谷と藤

七十一才卒平信より昇



○十月十日儒師福榮遷舟卒 七十七歳名正養孫十左衛門助也  
是光の孫養子男を黙家といふ

○宝曆十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百十年忌 ○二月朔日より茅場町茶師内にて信丹を

井郡金胎より不動寺に出釈迦如来開帳 ○三月朔日より淡路善五寺にて甲

舟遠光寺日蓮上人像開帳 ○三月十二日より本中川茶師如来本堂修復

出来舟開帳 ○四月十日より本処法因寺にて系本より釈迦佛像開帳

○四月朔日より回向院一言親法言開帳 ○同日より洲寄舟大天開帳

○四月八日より十七日迄新多越念佛院中納娘忌廿二并遷修養 ○四月春

山名光寺河津院如来開帳 ○三回八幡宮開帳 綱合れとて  
美室小出せり ○雲巖島開覺寺

橋本稻荷社茶師如来開帳 ○四月八日より淡路玉泉寺にて下徳園垣谷

法宣寺祖師開帳 ○淡路唯念寺より下野國高田河津院如来 若老より  
新分身 開帳

○青山 久保町 高徳寺十一面觀世音菩薩開帳 ○千騎谷八幡宮にて武州入若郡山

口村東蓮寺 秀衡守 車還三尊弥勒如来開帳 ○四月十五日より相次江の高

岩屋舟大天開帳江戸より系猪多一 ○五月能海師慶忌速卒 卒分谷中  
是光の子孫也

○六月金胎工大津尋南卒 四十二歳  
孫八右衛門 ○八月十七日櫻

町中の芝居 標 大穴櫻町葺屋町新焼 中村勘三郎が芝居の  
善法中よりし不焼 ○九月二日官儒

中村蘭林卒 名明遠林深翁  
谷中お林のお孫 ○九月廿二日金胎工杉浦系嘉卒 六十一歳  
一才 ○十一月廿

七日儒師井上蘭臺卒 名通熙林嘉祐  
落合養雲の子孫 ○十一月二日能人松本淡淡浪花小卒 八十  
八才

○十一月廿八日親善上人五百年忌 ○日暮村長泉律院開創堂宇落成 二保  
山家

大僧正成善大玄和尚津云傳の二寺我創せんとの志願を以て入寂の後遺言より如百計千重にて川越  
蓮聖寺に主教を上人力を勤て終不成就すとの時任職尊寂位門和為及徳の旨をありて門師  
業状記一巻  
採りあり ○十二月五日金胎工稻川直光卒 称文正年  
系中若子中お孫

同 十二年壬午 四月閏



二月日本橋南町焼亡○四月より東本願寺より常陸國水戸製船山新  
 入寺宝物を洋せしむ○八月より深川浄土寺より甲助小室妙法寺祖師閣  
 帳○八月より日向院より上總國小田村祿會寺齒吹彌院如來閣帳○八月  
 浅草西福寺慈母每戈天宝物閣帳○麻布一本松大法寺大慈天修教大師  
の他三面閣帳  
 ○高橋如來寺より多摩郡那日原村一石山十一面觀世音閣帳○高橋度  
 申堂閣帳○足立郡清根安福寺日蓮上人牛込宗相寺より閣帳○昨年  
 山王所祭礼延引今年六月祝あり○七月より永代寺より成回不動寺并  
 帳○伊豆子長尾寺より越中兼光谷本法寺海中出現法花經紺泥金泥文  
 曼荼羅本相せしむ○谷中大法寺より下総小大野法蓮寺日蓮上人像閣帳  
 ○牛込園福寺より豆洲和殿妙國寺日蓮上人閣帳○浅草新所宗安寺七  
 重觀世音閣帳○浅草極寺員佛阿弥院如來閣帳○十月三日書家船田

耕山年

名推通称甲四第  
是處建修寺小築

○十月龜戸龍眼寺小殖發の冬子と安置以莊永郡

清永清谷寺小立一像之

寶曆十三年癸未

二月十五日より龜戸龍眼寺殖發聖徳太子閣帳○二月より深川玄信寺  
 阿弥院如來閣帳○二月廿五日より二月廿六日迄龜戸天満宮社殿建立成終  
 二付閣帳○三月九日より押上大雲寺觀世音閣帳○三月廿五日より日向院  
 老上洲大同山聖徳太子閣帳○八月廿八日より深川浄土寺より堀の内  
 妙法寺祖師閣帳○四月朔日より芝如來寺より河内兼井八幡宮閣帳  
 ○四月七日深川町より出火救急を指所門前迄焼亡○六月十日山谷巽  
 田明神祭禮壽子町より出火なり物を出た其後の休む○六月廿一日  
 画家狩野祐清英信卒号如満高年七十七  
深川浄土寺小築○長崎より傳一と号し生年不



よりて冬活小いむ日せ採びーとて一技拙と賣出なり○六月能優荻野八重  
 桐寂と宗中河ふ起碎身の餘り蠅せえんとて川下り立海をへ落入弱死を  
 平賀鳩溪根うまといつるま紙とつるま紙のぶ○八月慶東人參  
 高賣と止めぬ○九月朔日日蝕かす曆面小脱せりといふ○九月廿四日  
 祭礼昨年より延ひ慶月祝なり○十月廿四日同所幸子日岡田治助  
 朝鮮人參座を命ぜらる○十二月十九日書家篠田乃休卒名貞貞号金溪  
 陸人小日向全別  
 ○古今相撲大全捧り木村政務  
 著 ○志道新傳捧り風来山人  
 裁録  
 此年間記事  
 日暮里ゆき森稻荷三橋社  
 の外 新ふ勅清尺○坊上高塔頭公光院赤羽根  
 川端へ移る○目黒幡籠と境内窟出来る○宝曆中淺沼山の上人本  
 歌ふよりて江戸並近生合々弘法大師八十八箇不業始大進歌集  
 ありり ○伏森

稻荷系宝曆九年追隔年産子の町より花中練物社を渡りたるが其後  
 中後を○小野照崎明社系隔年社を起し練物を起りたる宝曆七年より  
 中後を○宝曆末より久日新田社より系緒多し社地より賣出諸人求てち  
 とと○根岸田光る庵中藤の心盛の以貴後遊記多し○婦女菅笠  
 磨りまじ紙にて張る日傘なり○夏合羽夏火事羽織漸く始る○去  
 節浮瑠璃磨れ江戸並の末為大坂の義方より京の園入高正傳末の  
 浮りりなる○卜者平沢左内ね学若社登軍書講終師深井志道新  
 小あり浮瑠璃  
 あり 滋野瑠璃成田壽仙小あり考仙の  
 考 ○此頃大坂於松六七十艘ありし  
 よし塵塚終まいり○旦那のわつら膏業と唱て市中業を賣る者あり○  
 浮世繪師終末真信石川豊信秀範と号六指園飯盛の女中と  
 る隆平の縁取ぬる七五橋といり 名居清信山本真信  
 孫平 鬼玉其外多し○好事の輩古物を集る事あり



○は時代世よの風俗をのぶる後名本られぬ為棒切しけるを撰て洋判記を  
 作り千石篇と題して角蜀山人の水滸論を別て賞せり○著紀速武玉川と  
 いふ俳虫十六篇をいふ一人の笑柄とて川柳が折柄も是より出たり云々  
 ○山本静親坊といふ若下は徳義といふ多紙をあらうて世に流る載るところ  
 銭文あれども教戒の言を用い人の著書十三部程あり  
著述目録ありて其書  
 回向院に在りて下は後我  
 仍れは他人の作をこれと誤りて其書下は後我  
 下は後我融字集は過徳書といふは紙も出たり  
 ○甚三四俗林  
 三角 賦及そのと著書頗多  
ありてその書は  
 ともいすべし  
 ○家衣小史虎菴云所蔵河原をようてたの方小嵩柳川端より  
 二枚それ家の前より男女の石像あり是は宝曆の以龜戸小砂屋なりて其家の  
 主婦の石像といふ後年春菴とて流るる子孫もあつたりいふ取あまら  
 流る後由緒も晒れし文化の半底を去けて寶砂舟をゆりて主婦石  
 と号して何る銭も立形も入るると云々○宝曆三年の以より大文字屋の

大がやちわといふ童謡あり  
吉原高町ちみき屋市を傳へたり云々  
 のどけいふ人初めと異なりは右自らかくしひて人を笑はせしむるごと  
 又云々  
 ○寄合茶屋淡草は東名源深川西之宮あり○標世居盛ふは  
 たり宝曆の始豊竹肥前様終りてと東決が是居ありて尚藝昌一まて  
 福内鬼外源内  
 縁平賀 降福瑞ありて作り出せり何れも佳化之  
昭和七年お能まるは  
 派の上より標よりけり  
 ○宝曆中西村宣長が繪本江戸のみあげ國中お國涼の湯は水菜  
 産産等其の産根をー見世毎は仍焼を並ては深和と記せり吉原五十軒編  
 笠茶屋小編は笠釣うて作り出せり女子帽子をうむる淡草廿軒茶屋の  
 けんとう○花屋あざなり○婦女の衣敷丁子菜の色を好み花替と  
 やぶ末塗の櫛旭の櫛  
 扇の櫛と作り象牙の弁も作り○硝子の外國のものはあるを  
 蘭人が作り中古茶店にて製造するを得系大坂お徳丁を近以茶敷と  
 して職人多く出来て是の器を製し活業と流る者ありて作り出せり虎菴云々



ビイドロエ紫液らんごはゆぐホルトカルのこ辞ありと○横山町を子目疾風を掃  
このりのニ更して田舎小用ひよの箱はこの齒は是述作たてたりしを鉄てつニ作り  
ゆゆるむ○圖書集成つしゆせいせい一万卷康熙帝こうしの自撰じ之宝曆十三年ほうりく舶来はくして  
寶庫たから（おさめらるる）安齊やすま謗うらみ草くさふくくりまま六改元むい以もああるる一

明和元年甲申

六月十三日改元 十二月日

二月十二日朝鮮人來

正使鄭尚憲副使李仁煥 後車陸樂仁奉表致書旅宿

三月六日上野かみをを曲馬まが有り滑

人ひとの物ものす○二月より目白めび不動ふどう寺てら開帳○深川ふか淨じやう心しん寺てら縁倉えん宿しゆく谷や先

則すなは經か祖そ師し開帳○深川ふか永代えい寺てら之系けい栗田り口くち青蓮せい院いん宮みや持もち灸あ不ふ物もの者

三条小飛みよ作しやく相あひ極ごく縮しゆく為な神かみ親おや香か上人じゆん強かう發はつ像ざう開帳○荻あし切き町ちやう茶ちや師し内うちにて

奥おく別べつ安あん達たつ系けい人にん肌はだ茶ちや師し如ごと来き世よ帳○回かい向かう院いんをを武ぶ則すなは橋はし附つけ郡ぐん山やま口くち親おや世よ者もの開

帳○目め黒くろ不ふ動どう寺てら内うちをを相あひ及およ大山おほ山やま棟むす子こ安あん地ち孫まご為な開帳○三さん回かい喜き日にち明めい神

開帳○回かい向かう院いんをを伊い勢せい山やま回かい入い門もん寺てら延えん院いん如ごと来き 古刹支丹遊治 幡隨院感得 開帳○淡たん草そう報ほう恩ん

寺てらふふ奥おく阿あ南なん於お本ほん誓ちか寺てら親おや香か上人じゆん宝たから物ものをを拜をせせむ○二に月げつ廿にじふ日にち夕ゆふ七しちツツ町

村むら田でん新しん張ちやう町ちやうより空くう火か小せう風ふう烈れつ々々蟬せみ燭しゆく町ちやう多た町ちやう堅かた大おほ之の町ちやう新しん石いし町ちやう鍋なべ町ちやう新しん治

町ちやう西せい側がわ塔たつ川がわ町ちやう永えい富ふ町ちやう下した町ちやう鎌かま倉くら町ちやう三さん河が町ちやう是こゝ町ちやう目め本ほん報ほう町ちやう今いま目め本ほん石いし町ちやう本

町ちやう是こゝ町ちやう目め一いつ石いし橋はし追お燒や日にち夜よ八はちッッ時とき是こゝ船ふね治ちやう肉にく一いつ飛と火か河が門もん燒や六むッッ所ところ獲とる

韓かん人にん還えん留りゆうののちちああててあありり ○二に月げつ中ちゆう旬じゆん平へい賀か鳩と漢かん 糸 火か院いん布ふをを更さらへへ創つくりり製せいす

中ちゆう一いつ香かう袋たい小せう他たる てん 是こゝ今いま年ねん三さん月げつ初しつ日にち紅こう毛もう人にん來き初しつ日にち有あるる官くわん備び青せい木ぼく茶ちや高かう生せい針はり法はふのの序しよ張ちやう場ばうを

紅こう毛もう人にんよよりりををけけるるはは大おほにに驚おどるるはは紅こう毛もう天てん竺ぢくをを始は世よ界かいのの國くにををももてて織オリ法はふをを初しつ日にちとと賞かうををけけりりととぞ

後ご之の多たききをを 公こうふふ多たりり官くわん備びよりより在ありり在ありり土つち月げつ長ちやう崎さきよりより清せい人にんのの豎たて杖じやうををけけりりきき 後ご人にんよりよりるる衣い羽う織オリををけけるるととああるるのの織オリ法はふをを大おほ低ひ三さん尺せき寸すん限げんりりととすす

火か院いん布ふ隔かく火か包ほう紙し之の銘めい

火か院いん之の布ふ自じ古こ有あるる名な被ひ安あん造ぞう説せつ臆おく度ど意い量りやう木ぼく皮ひ斯す調てう鼠そ毛もう南なん荒かう

或ある果くわ誣そ理り謂い傳でん者もの妄まが洋やう旗き造ぞう物ぶつ聲せい可か推お窺のぞ陽やう中ちゆう有あるる陰いん陰いん中ちゆう有あるる陽

入い火か不ふ化か柔じゆう能のう制せい剛かう昔せき彼か西せい戎じゆう今いま我われ 東方とう織オリ成せい素そ練れん過か以も銀ぎん 鑲こう一いつ片ぺん隔かく火か百ひやく姓せい槻き查しや書しよ堂たう清せい供かう繡しゆう房ぼう風ふう情じやう 大だい日にち本ほん讀どく岐き 壱いつ溪けい平へい賀か國こく倫りん創そう製せい〇〇

武江三







形之助と稱したることあり  
あつたがきとては 拜世 未よりぬりとすれは月日と西とをくまゆん  
 又同時小湊野瑞就軒といひ講釈師も若くは男甚蔵父の名を燒て  
 吉耕せり ○四月日光山所社忌方部所法會 ○飛戸村あり鉄砂を燒さる  
 らる ○六月より平井法を講つといひ若深川所寄の東小御除土名長十七町餘有  
 一丈二尺容六なる踏式名を藤立新といふ廿万坪餘の地を宇見聖成年七月廿二  
 日より極を燒始む所の所を平井新田といひたより見物の人夥りしが安永  
 ふいよりるもあく止り は不越規の所とありて大故とといふ ○秋發切ある ○七月  
 朔日より日向院より武見府中深大寺厄除元三大師開帳 ○同日より永代寺  
 ありと發及留士裾野厚系若我八幡宮 祐成 時致 神像出候明神 荒 所寄 開帳 ○同日  
 日より日向院より梅田村不動尊開帳 ○七月廿三日同寺梅田山吹河原院あり  
 開帳 ○八月三日大風も深川辺其餘亦上へ水あり ○八月十六日二葉判若言請

死 今余大 ○芝浦より一丈余の魚上る後西國橋畔より見せ物と尺色白く鱗あり  
 鯨の類之名をマンボウと云 ○九月五日銀通用始る ○九月七日儒師長井嶽州  
 卒 名孝先称郡方丈 古賜東禪る小葬ハ ○九月向後續き神田明神奉禮九月廿三日小後神樂渡  
 り所の町々横町のめ切神主はひ小依り當年より柵を結ふる小成り  
 ○十月廿日儒師本村遠東卒 名貞實字若忠 日寄海部も小葬ハ ○十一月神田今川橋小右左火除  
 土名再興 ○十二月神田依久る町小醫學館建 多紀氏 基立 ○十二月四日昼時月白  
 臺より出火夕七時迄燃る新焼多し ○十二月廿九日書家深恩茶卒 台十 九才  
号風岡縣内中名川 林名寺小葬ハ

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺より三洲伊賀村八幡宮奉祀茶師如來開帳 ○二月  
 廿日より所為前花極院より三及碧海郡上重永村遍照院弘法大師開帳



○二月廿九日堺町製材所の店（音相）より失火して高野の芝居敷焼く大風も  
 して焼廣がり因獄の辺に落ちる○三月十二日下谷溝に家より火車坂下まで  
 焼亡せり○四月朔日より日出不動なる下野國岩船山北蔵寺開帳  
 ○同日より祐天寺延徳如來祐天信正縁開帳○同日より信谷金五八幡  
 宮開帳○久保保法若寺七面の祐開帳○四月朔日より回向院にて大和  
 飯原若光寺天満宮本北十一面觀世音開帳○高田宮八幡本地佛開  
 帳○谷中宗林寺舟中延三帝鬼子母神祖師天法宮開帳○幡谷庄藏  
 寺不動尊開帳○芝田宮社地まて武州多摩郡國分寺藥師日光月  
 光并開帳○七月六日浩水小日向小石川本所の辺にて水害塔より  
 ○靈巖高麗之地成り俗より藥菰高とりふ○七月朔日より回向院より  
 川崎真福寺藥師如來開帳○同日より回向院にて祐天川親福寺浦島

大神守佛親世寺鎌倉三葉堂開帳○同日より濱草寺内社高院寺六并寺天  
 腹菟岩寺開帳八月一日○同日より濱草寺境内にて紀及加太濱高野社  
 虚空藏菩薩開帳○護國寺より強河富士山宗人の來迎三尊佛開帳  
 ○濱草樞寺より上及甘樂郡白井源堂寺藥師如來圓光大師開帳  
 ○鹿戸祐眼寺越中池辺に救世の杖を栽り是より毎年盛の以考杖  
 遊覽の地と成る壽阿曇齋師の説ふ此時代迄高野の辺に盜賊徘徊して其來の人の衣類  
 を剽奪する者ありと云ふを信じて杖を栽りて杖を栽ると云ふ一めりと  
 して高野の  
 名を著す○十一月六日御人柳新齋批率五十才の幼徳性も不蕃の齋神を納め  
 一日五才の身形せりより五子と号

明和四年丁亥 九月間

正月元旦未八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より永代寺にて江及井生  
 島每才天西玉札所親世音開帳○同日より保川御崎每才天開帳○同日よ  
 回向院藥菰每才天開帳○四月より日蓮寺幢と然護權現金毘羅每才天



開帳○四月より谷中奉光古祖師開帳 ○猿町稚子宮宝塔元三大師開帳  
○相忍江の高下の官舟才久開帳江戸より来詣多し ○園東川之江後あり

○四月九日駒形町より出火湊芝草風雷神門焼る二神像金龍山の額を  
恙多し ○真光神明宮の地より近大納言家長卿所不持あり ○菅神  
の像より之勅請あり ○四月十二日儒師赤松太慶卒 名弘 林平 ○六月八日儒

師服部仲英卒 名雄南郭の 甚子あり ○七月廿二日儒師大藪残塘卒 名良良林名孝 後芝実おち多 ○  
七月廿四日神陰流叙術師長沼四郎左衛門國々卒 八十六歳 加運多 ○八月三日画人

波辺湊水卒 年六十八 名從林名義麻布若福ち小葬以 男と玄對と云ふ小画を長くす文政中卒也 ○八月十五日田丸八幡宮祭礼  
産子町より出火條物を以て神樂神樂坂の所旅不返りまのり 生从来 中絶也

○十一月晦日儒師赤松沙路卒 名舊邦太慶の兄也 麻布若福ち小葬 ○秋祭切り ○十二月五夜狼  
のりむねよより次金まゐふ十二夜の通用と成る ○十二月書家版田百川

卒 名祝勝林保口郎 廣津の門人より後董其昌せまふ近世 西久保青純ち小葬 董帖を慕するよりいんより終るなり  
明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒 徐法三弟名信持号東惠為 本核兼教中頭宗院に葬以 ○二月廿日より  
王子権現王子稲荷明神開帳 ○二月三都より浄土真宗の怪しき法儀

を以てひりのを刑せらる 俗におろし門徒と いふこれあり ○三月十日谷聖陽寺如光佛観  
世音開帳 ○三月十六日より永代ちあて京大原野春日明神開帳 ○三月

廿日より三田八幡宮開帳 冥宝不全れこれあり 其のつものあり ○回向院にて尾洲野間の同海大  
浄堂地蔵寺開帳 ○三月大師河原村百姓太郎左衛門砂糖を製し弘法 製法 傳授

せまふ者多し犯犯名不圖舎おりの以より犯犯府條の為漢雜を登町あり雜変甚何某製  
法を傳へて始て在田丸小豆島村の田畑不甘藤をう名てこれを製しける今考ふ小製はりの枝が  
傳を交ふる者ありとあり製法の多平賀徳漢の物類品騰ふりつこの時代まで

砂糖不取多新集の物とのもん好より一磨糖後より今二般に和製法の物なり ○四月朔日  
より定る弘法古祖師開帳 ○四月六日曉八時吉原江戸町或丁目より出火大



風よ之廓跡より五十軒送身之焼亡也

明暦丁酉の災後高野へ移りて焼失災を免くたし、悉くのち今年廓中のこゝに焼亡り九軒を修葺す

社のおつがかり仮宅へ並木町今戸橋場  
山谷新を越へ出ると百日の高商賣せり

○六月廿六日給送通用路

比交送之能事  
おと送る

○六月廿七日

て龍祠和製を命せられ三都小集り

○六月九日鳥越明神祭禮外妻を改

養子町より出し練物を出せ

○六月十六日夜四時五十分大雨大雷

八ッ時止  
切多門焼

○九月十八日哥人村田妻郷卒

二十才妻海の兄あり  
深川本振より葬

明和六年己丑

正月五日書家之顯壽卒

各玄融牛込町  
純王より葬 ○三月より浅草五泉寺ありて下総

谷安玉之祖師閑帳 ○谷中本妻ありて下総野呂妙興之祖師閑帳

○三月十日より飛戸天満宮内ありて越後高田春日明神本地親巻音

兼不不親之閑帳 ○三月より護國寺ありて大和子島寺大峯洋仗役

者閑帳 ○押上春慶寺若賢井閑帳 ○四月朔日永代寺四國琴彈山

の字阿弥院如來天地不動寺本自坊より閑帳 ○月八日より湯島社地

て和泉石津大社炎婆閑帳 式内の社と云社人石津連と云この時巫女二人ありてを  
撰むる者り以名残いありと云給米喜信禱給ふ  
多く ○浅草園慶堂ありて足立郡下桑山十連寺焰魔王田光大師閑帳

○四月七日より田向院ありて川口善光寺阿弥院如來閑帳 ○浅草寺境内

より奥州二本松鏡石寺 安達系鬼神遷座  
東光坊後佛 親世寺閑帳 ○四月十八日より六月八

日追儀あり親世寺閑帳 ○五月朔日より浅草権寺ありて常陸鹿島廣徳

寺兼島本地赤童子閑帳 ○同日より所我前十五堂ありて和及町尾村梅

雲寺三宮荒神宇帳 ○七月廿一日哥人村田妻道卒 東海の又あり  
深川本振より葬 ○七月下旬

より八月下旬追孫星現之長教大爺の如し 縮星といふ  
乾星こと云 ○八月廿六日未刻

より大風雷雨鳴あり人家を傷損を深川三十三万堂倒る ○七月廿二日

算術師長部禰采卒 採方方史  
牛込本振より葬 ○九月十日小石川氷川明神祭礼養子



町より出づ練物せ出づ中後 ○十月風邪流行冬後

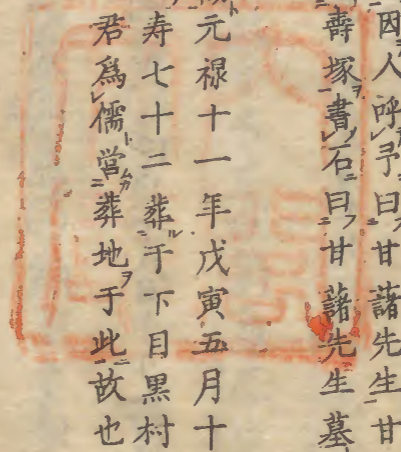
運以下級小あつ休む ○十月十二日官儒青木崑陽先生卒七十一才号草廬祿文菴云

甘藷先生といふ同系流泉もの後山みづる所の碑文を写せり

西面甘藷先生墓とあり右の方には藪以

享保二十年青木 敦書 蒙命種甘藷 因予曰甘藷先生甘

藷流傳使天下無餓人是予願也今作壽塚書石曰甘藷先生墓



左の方小云 君諱敦書字厚甫源姓青木氏号昆陽元禄十一年戊寅五月十

二月生明和六年己丑十月十二日終寿七十二葬于下目黒村

○十月廿六日金雕工濱野政隨終七十四才 称太郎也

○十月晦日加茂真淵翁江戸卒終七十三才小川東海方中 少林院に葬り

武江年表卷之五終



